

『地域研究のためのフィールド活用型現地語教育』

平成21年度派遣報告書

——インドネシア共和国・ハサヌディン大学・インドネシア語、
派遣期間(H21. 12. 3-H22. 2. 28)——

平成20年入学
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
博士課程2回生
原田ゆかり

自身の研究テーマについて

近年急速に進んでいる熱帯雨林の伐採は、マングローブ森林生態系においても例外でない。グローバル化の影響による養魚池の増加などが原因で、インドネシアでは、2000年にはマングローブ森林生態系の減少率は1980年に比べて31%の減少となった。そこで本研究では、グローバル化の影響を受けつつも今なお豊かなマングローブ森林生態系が残っているインドネシア共和国リアウ諸島州を、マングローブ森林生態系と人間の共存が成立している地域と仮定し、自然と人間の共存における一つの例を提示する事を目的とする。

2009年夏、リアウ諸島州バタム島において、聞き取りによるマングローブ利用の実態・調査村概要、毎木調査による森林構造調査を行った。結果、現在もバタム島には200以上の炭窯が存在しており、マングローブ炭を製造している。「炭作りなどのマングローブ林の利用は、伝統的な文化だ。だから私達は法律を恐れていない」という声が印象的であった。バタムは工業都市であるが、マングローブ林の景観を観光資源として、水産資源や森林資源を生業として利用している人々が今も多くいる。島を支えてきた人々の生活を守るために、今後どのようにマングローブ森林生態系の保護を行っていくかを考える必要が示唆される。

このような調査結果から、本研究は、グローバル化とローカル化のインターフェースであるグローカライゼーションについて論議する中で、重要な一例を提供する事になると考える。



写真1. 伐採した炭用マングローブ材を船で運ぶ

研修言語概要

多民族・多言語国家で知られるインドネシアには、約490の民族と約250種の言語が存在すると言われている。この国では1945年憲法によって国語を、マレー語(ムラユ語)を源とする「インドネシア語」

に統一した。小学校段階からインドネシア語教育を行っており、インドネシアのほぼ全地域でこの国語が理解されている。インドネシア語は多数の民族集団を一つにまとめる役割をし、現在の統一を支える重要な要素となっている。

語学研修の内容

授業は学生3人、合同で行われた。基本的に週3回、火・金に文法、木に会話というスケジュールを組み、2人の先生によって合計15回行われた。3人とも事前に授業・自習・現地生活において、ある程度のインドネシア語の学習を行っていたため、中級レベルの文法・単語等の学習を行った。

教科書は存在したが、配布されるまでに時間が2週間程度かかり、その後もほとんど教科書を使って学習することはなかった。そのため「今日はme-動詞について教えてください」などと毎回先生に伝える必要があり、きちんと全ての課程を消化する事が出来るのか、若干不安に感じた。

しかし先生の指導は熱心で、授業内容外の疑問等にも快く応えてくれた。1度だけ、1人で授業を受ける機会があり、その時は自宅で読んでいたインドネシアの法律文章についての質問を中心に授業を行って貰った。いつもの授業とは異なり、自身の研究に直接結びつく学習を行って貰えたので、満足であった。



写真3. 授業風景

だが、個別授業でなく合同授業であった事によって得た物も多い。マングローブ森林生態系・生活習慣病・日系企業と、個々の研究対象が全く異なっていたため、相手の作る例文に出てくる単語や質問する内容から、新しい発見をする事もしばしばであった。また、知らない単語や言い回しが出てきた時、先生のインドネシア語での説明が理解できなかった時など、お互いの知識を補い合って理解を深める事が出来たように思う。

研修期間中に印象に残った体験や経験

文法は先生から習い、会話は友達から学んだ。今回の語学研修に限らず、語学を学ぶ上では基本的かつ重要なことだと思う。文法はきちんと習うべきである、しかし、それでは教科書を読むことしか出来ない。「習うより慣れろ」。会話はひたすら実践する事で身に付くのだと実感した。

文語と口語はやはり少し異なるものである。文語での文章を組み立てて話そうとしている間に、どんどん会話は進展して行ってしまっていて、話について行けなくなってしまう。そんな時、さらっと合いの手や質問を挟む事が出来たら、ますます会話は弾み話は広がる。そうやって覚えた言い回



写真2. 授業風景



写真4. 友達による課外授業（観光）

しや、単語などがいくつもある。発音に関してもそうだ。いくら自分がその単語の意味やスペルを知っていても、それが相手に伝わらなかつたら、私達のようなフィールドワーカーには意味が無い。今回の語学研修では、習うことと慣れること、両方を行う事が出来たように思う。

目標の達成度や反省点について

今回の目標の一つは、インドネシア語で書かれた法律文書を読む事にあつた。インドネシア語の文法自体はそれほど難しい物ではない。しかし単語に接頭語・接尾語が付く事が多く、辞書で引く際にはそれらを外した原型の形で探さなくてはならない。それを速やかに行えるようになる事と、自身の研究に関係して語彙を増やすことに務め、最低限の目標は達成できたように思う。持参した法律文書は読み切る事が出来たし、語彙も増やす事が出来たことには満足している。今後、インドネシア語で書かれた文書の読解を行う必要が出てきても、臆することなく取り組む自信が付いたように思う。

反省点は発音の悪さを改善する事が出来なかつた事だ。日本語にはない「r」の音をどうしても上手く発音することが出来ないままであつた。周りの友達も、私のその発音に慣れてしまい、訂正してくれる事もなかつた。もっと積極的に、発音の改善に取り組むべきであつた。

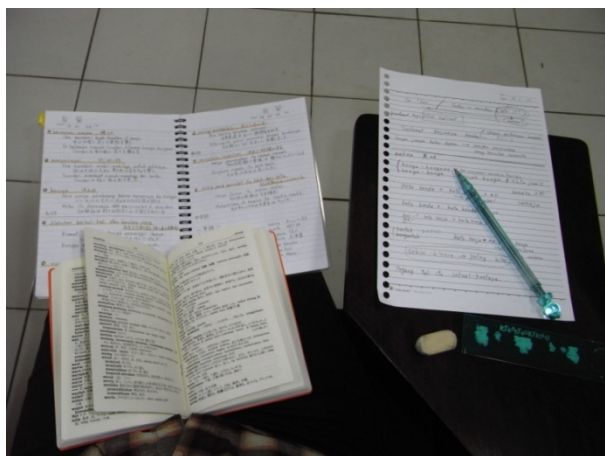


写真5.

事前に予習したノートと辞書を持参。
効率よく授業を受けられるように心掛けた。